

来夏の見通しについて

1. 今夏の需給見通しからの増減可能性

○ 来夏の需給見通しを検討するにあたり、今夏の需給見通しからの増減可能性は以下のとおり。

(1) 需要面(5月の需給検証後)

	需要増の可能性		需要減の可能性	
	要因	影響量	要因	影響量
節電影響	<ul style="list-style-type: none"> 節電意識の低下等による節電量の減少等 計画調整契約の減少 	+α	<ul style="list-style-type: none"> 更なる節電の増 計画調整契約の増加 新たなピークカット対策の拡大等 	-β
景気影響	<ul style="list-style-type: none"> 景気拡大(GDP・IIPの伸び率増加) 工場の立地促進、スーパー新規出店 	+α	<ul style="list-style-type: none"> 景気低迷(GDP・IIPの伸び率鈍化) 工場の生産減少、スーパーの撤退 	-β

(2) 供給面(5月の需給検証後)

※火力・水力共通

	供給増の可能性		供給減の可能性	
	要因	影響量	要因	影響量
原子力	大飯3・4号再稼働(236万kW) + 揚水増(210万kW)	+446	—	—
火力	新設火力、被災火力の復旧	上越1-2・2-1号(各60万kW):2013年1、7月運開 原町1・2号(各100万kW):2013年4、3月末運開	+320	—
	定期検査の繰延※	苫東厚真4号(70万kW)の定検終了	+70	設備の保安の観点から繰延ができない定検
	自家発・緊急設置電源	自家発購入量の増加	+α	自家発購入量の減少
太陽光発電	太陽光発電導入量の増加	+α	太陽光発電導入量の減少	-β

増減可能性



次ページ参照

2. 来夏の見通しのイメージ(まとめ)

- 今夏の需給両面での取組等を前提とすれば、来夏の需給ひっ迫は抑えられる可能性がある。
- 但し、定期検査の繰り延べの限界等による供給力減少、また景気拡大や節電意識低下・緩みに伴う需要増加があれば、需給状況は変動。
- 従来からの省エネ投資の促進などの構造的な対策を継続しつつ、ピーク料金、ネガワット取引など新たなピークカット対策の拡大に向けた取組みもさらに進めるとともに、広域融通を円滑に行うための環境を整備。
- 今後とも、供給力の確保や節電の取組みを進めつつ、需給状況を注視。

電力9社計

